

一般會計，特別會計

1 令和2年度当初予算の概要

(1) 基本的な考え方

創造的復興を力強く押し進め、
欲張りなライフスタイルの実現を目指します。

平成30年7月豪雨災害からの一日も早い復旧・復興に向け、創造的復興による新たな広島県づくりに、引き続き、最優先で取り組む。

また、チャレンジビジョンの最終年となることから、これまで取り組んできた施策を着実に進めるとともに、社会経済環境の変化に的確に対応し、ビジョンの目指す姿である「欲張りなライフスタイル」の実現に結び付けていく。

～ 創造的復興による新たな広島県づくり

◆ 平成30年7月豪雨で被災された住民の皆様の一日も早い日常の回復が図られるよう、復旧・復興プランに基づき、「安心を共に支え合う暮らしの創生」「未来に挑戦する産業基盤の創生」「将来に向けた強靱なインフラの創生」「新たな防災対策を支える人の創生」の4つの柱により、被災者の方々の生活再建と、県民生活や経済活動の日常を取り戻す取組、公共土木施設等の早期復旧など、速やかな復旧・復興に引き続き全力で取り組む。

さらに、単なる原状復旧に留まらず、この度の災害を起点として、被災前よりも更に良い状態に県全体を押し上げていくよう、創造的復興による新たな広島県づくりを成し遂げていく。

～ 欲張りなライフスタイルの実現へ

◆ チャレンジビジョンの最終年において、経済成長や人材の育成など、これまでの取組で現れてきた成果や、新たに育ちつつある成長の芽を県民の皆様により実感いただけるよう、更なる成果の獲得に向けて取り組む。また、県民ニーズを踏まえ、対処すべき課題や社会環境の変化にも対応することで、欲張りなライフスタイルの実現を図っていく。

◆ とりわけ、新たな潮流として、急速に開発が進むデジタル化社会の到来へ向けて、先端技術やビッグデータを活用して様々な社会課題の解決と県勢発展を目指すデジタルトランスフォーメーションを推進していく。県内全域で、デジタル技術の恩恵を享受することにより、県民生活や県内企業が、様々な面でより良い方向に向かう社会の実現を目指す。

また、グローバル化が一層進展する中、増加が見込まれる外国人の円滑な受入と定着に向けて、就労環境と生活環境の両面から必要な取組を総合的に実施する。企業において、外国人が活躍でき、外国人にとって住みやすい地域となることで、外国人から選ばれる広島県を目指していく。

■ 会計別予算規模 ■

一般会計	1兆905億円	前年度比 + 354億円 + 3.4%
特別会計(11会計)	5,435億円	前年度比 ▲ 59億円 ▲ 1.1%
国民健康保険事業費特別会計	2,378億円	前年度比 ▲ 65億円 ▲ 2.7%
企業会計(5会計)	723億円	前年度比 ▲ 12億円 ▲ 1.7%
流域下水道事業会計	115億円	前年度比 ▲ 18億円 ▲ 13.2%

※ 企業会計は、収益的支出及び資本的支出の合計である。

(2) 施策体系

◆ 創造的復興による新たな広島県づくり

安心を共に支え合う暮らしの創生

未来に挑戦する産業基盤の創生

将来に向けた強靱なインフラの創生

新たな防災対策を支える人の創生

◆ 欲張りなライフスタイルの実現

デジタルトランスフォーメーションの推進

- 仕事・暮らしのデジタル化の推進
- 地域社会におけるデジタル化の推進
- 行政のデジタル化の推進
- デジタルトランスフォーメーションの推進を支える基盤づくり

地域活力の基盤づくり

- 中山間地域の地域力強化
- 都市圏の活力強化
- 東京圏等から広島への定住促進
- 地域共生社会の実現
- 外国人の受入環境整備

希望をかなえるための後押し

- 社会で活躍する人材の育成
- 子供の健やかな育ちを支える環境の充実
- 働き方改革・女性の活躍促進
- 多様な人材の活躍支援

暮らしを楽しむ機会の創出

- スポーツを核とした地域づくり
- 暮らしを楽しむ機会の創出

ゆとりの創出

- 第4次産業革命を好機とした生産性革命
- 中小企業・小規模企業の持続的な成長への支援
- イノベーション・エコシステムの共通基盤の強化
- 多様な創業と新事業展開の促進
- 多様な投資誘致の促進
- 成長産業の育成・支援
- 世界と直結するビジネス支援
- 成長産業の柱の一つとなる観光産業の確立
- 担い手が生活設計を描ける農林水産業の確立
- 人生100年時代を見据えた「健康寿命の延伸」
- 持続可能な医療・介護提供体制の構築
- がん対策日本一に向けた取組の推進

広島の価値の共鳴・共振

- 国際平和拠点ひろしまの形成
- 「ひろしま」ブランド価値向上の推進

(3)「創造的復興による新たな広島県づくり」に向けた取組のポイント

① 安心を共に支え合う暮らしの創生

被災による「大切なもの（日常）」の喪失と、将来への不安の中から、被災された方々が一日でも早く、日常の生活を取り戻していただけるよう、関係機関が連携し、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援を行う。

② 未来に挑戦する産業基盤の創生

本県の経済活動を被災前の状態に再生させ、県内企業の新たな発展に向けた支援を行うとともに、企業活動の非常時に強い体制の整備を着実に促進する。

さらに、経営基盤の強化や、新たな付加価値の創造など、本県の産業の新たな基盤づくりを総合的に進める。

農林水産業においては、生産活動の早期再開に加え、将来の経営発展に向けて、意欲のある担い手への農地集積や生産基盤の最適化、新技術導入などの支援を積極的に行い、生産性の高い農林水産業の振興へ誘導する。

③ 将来に向けた強靱なインフラの創生

インフラについて、被災地の早期の復旧・復興、再度災害防止に向けて、引き続き、災害復旧事業や改良復旧事業等に全力で取り組むとともに、ため池については、機能に着目した統合、廃止も含め検討するなど、必要な強靱化を進める。

また、医療施設や社会福祉施設等において必要となる機能やリスク等を検証し、災害時に備える総合的な対策を講じる。

さらに、防災・減災に資する新たなまちづくりを市町と連携して進め、住民の安全な居住が誘導されるよう取組を進める。

④ 新たな防災対策を支える人の創生

実際の災害時において、県民一人ひとりが自ら判断して避難行動をとるために必要となる条件や要素などについて、防災や行動科学の有識者を交えた詳細な研究を踏まえて、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の取組を強化し、災害に強い広島県の実現を目指す。

また、自主防災組織による避難の呼びかけ体制の構築や、組織の中心となる人材の育成を図っていく。

さらに、児童生徒一人ひとりが災害から命を守る判断・行動を適切にとることができるよう、学校における防災教育の充実に取り組む。

(4)「欲張りなライフスタイルの実現」に向けた取組のポイント

① デジタルトランスフォーメーションの推進

AI/IoT,ロボティクス等のデジタル技術やビッグデータを活用したデジタルトランスフォーメーションと呼ばれる潮流が到来している。この潮流は、日本のどこからでも世界とつながって仕事ができ、日本のどこでも教育や医療など必要なサービスを利用できるなど、産業構造やビジネスモデル、働き方・暮らし方、生活スタイルそのものに変革をもたらすとともに、社会をより便利で快適に、豊かに変える可能性を秘めている。

本県においても、この潮流を、省力化や新たなサービス・付加価値の創出による生産性向上や競争力強化といった経済発展と、人口減少・少子高齢化に伴う労働力不足や地域活力の低下などの社会課題の解決を両立させる好機として捉え、持続可能な社会の実現につなげていく必要がある。

このため、令和元年7月にデジタルトランスフォーメーション推進本部を設置し、「スーパー・スマート広島県」を目指す姿として掲げ、「仕事・暮らしのデジタル化」、「地域社会におけるデジタル化」、「行政のデジタル化」の3つの柱で取り組んでいる。

県内全域で、デジタル技術の恩恵を受けて、県民生活や県内企業が、様々な面でより良い方向に向かう社会を実現するデジタルトランスフォーメーションを一体的かつ総合的に推進し、欲張りなライフスタイルの実現を加速させていく。

② 希望をかなえるための後押し

人口減少、少子高齢化の時代にあって、広島県に多くの人が集まり、県民みんなで子供たちを育み、全ての県民が生き生きと活躍できる欲張りなライフスタイルを実践できるように、県民一人ひとりが、学校や仕事、家庭など様々な場面で夢や希望をかなえられるように後押ししていく。

そのため、家庭の経済的事情を含め、子供たちが生まれ育つ環境に左右されることなく、全ての子供たちが健やかにたくましく育ち、様々な変化にも対応して、社会で活躍できるよう、乳幼児期から社会人まで一貫した取組を行う。

また、全ての子供と子育て家庭が安心して暮らし、子育てができるよう、妊娠期からの切れ目のない見守り・支援などに取り組む。

個人の状況やライフスタイルに応じた多様な働き方ができるよう、働き方改革と女性活躍促進を一体的に進めるとともに、働きたいと思う人がその意欲と能力に応じて安心して働くための就業支援に取り組む。

③ ゆとりの創出

県民のみなさんの様々な欲張りなライフスタイルを実現するには、その基となる「時間的ゆとり」「経済的ゆとり」「心身ともに健康であること」が重要であることから、これらの「ゆとり」を創り出すための取組を推進する。

時間的ゆとりの創出のため、個人の状況やライフスタイルに応じた多様な働き方ができるよう、働き方改革を推進する。

経済的ゆとりの創出のため、第4次産業革命への対応を進めるとともに、持続的なイノベーションを創り出していくための基盤強化や、地域経済を支える中小企業・小規模企業の持続及び成長に向け、「広島県中小企業・小規模企業振興条例」を踏まえた総合的な支援を行っていく。また、ものづくり産業の集積や多様な農林水産資源、豊富な観光資源などを生かして、産業振興や雇用創出などに取り組む。

健やかで心豊かに生き生きと暮らし続けるため、健康の保持・増進と介護予防に向けた県民の行動変容を促す環境を整備し、健康寿命の延伸を図っていく。

④ 地域活力の基盤づくり

県民のみなさんが欲張りなライフスタイルを実現するためには、それぞれの住んでいる地域に活力があり、人々が生き生きと暮らせる環境をつくり出す必要がある。

そのため、都市と自然が近接している本県の特徴を生かしながら、中山間地域の地域力強化や都市圏の活力強化に取り組むとともに、高まりつつある地方移住の機運を取り込んで移住・定住の促進などに取り組む。

また、多様な主体が生き生きと暮らすことができる地域共生社会の実現に向け、地域コミュニティづくりや、地域住民と専門機関等が協働した包括的な支援体制の構築などに取り組むとともに、外国人の円滑な受入定着のため、企業や地域で安心して働き、暮らすことができる環境の整備に取り組む。

⑤ 暮らしを楽しむ機会の創出

県民のみなさんの暮らしを楽しむ機会をより多く創り出すため、アウトドアを楽しめる自然環境、豊かな食、スポーツ、県立美術館や広島交響楽団などの文化施設・団体、世界に認められた豊富な観光資源などを有効に活用しながら、誰もが気軽に楽しむことができるコンテンツの充実や質の向上、仕組みづくりを進める。

⑥ 広島価値の共鳴・共振

核兵器のない平和な世界の実現に向けた取組を進め、ひろしまブランドコンセプトの一つである「平和への希望が集う場所」としての価値を更に高めていく。

その他の3つのコンセプトや、広島の地域資産であるスポーツ、文化などとの相乗効果とも併せて、広島価値に対する県民の共感の獲得（＝共鳴）と、広島の国内外での認知・評価の向上（＝共振）につなげる。

(5) 国の補正予算を活用した令和元年度2月補正予算との一体的な編成

国の補正予算を活用した令和元年度2月補正予算と一体的に予算編成し、創造的復興を力強く推し進め、欲張りなライフスタイルの実現に取り組む。

【予算規模等 [一般会計ベース]】

令和2年度当初予算

1兆905億円 対前年度比+354億円



国の補正予算を活用した令和元年度2月補正予算103億円と一体で編成

令和2年度当初予算+令和元年度2月補正予算(国の補正予算活用分)

1兆1,008億円 対前年度比+457億円

【重点施策への集中的な取組】

ア 創造的復興による新たな広島県づくり 1,087億円

創造的復興による新たな広島県づくり 4つの柱	事業費	令和2年度	令和元年度
		当初予算	2月補正予算
安心を共に支え合う暮らしの創生	3億円	3億円	—
未来に挑戦する産業基盤の創生	185億円	185億円	0億円
将来に向けた強靱なインフラの創生	891億円	846億円	45億円
7月豪雨災害対応(被災地域等)	571億円	555億円	16億円
防災・減災対策	320億円	291億円	29億円
新たな防災対策を支える人の創生	5億円	5億円	—
その他(応急対策等)	3億円	3億円	—
計	1,087億円	1,042億円	45億円

イ 欲張りなライフスタイルの実現(主要事業) 264億円

施策体系	事業費	令和2年度	令和元年度
		当初予算	2月補正予算
デジタルトランスフォーメーションの推進	3億円	3億円	—
希望をかなえるための後押し	98億円	67億円	31億円
ゆとりの創出	145億円	145億円	0億円
地域活力の基盤づくり	8億円	8億円	—
暮らしを楽しむ機会の創出	5億円	5億円	—
広島の価値の共鳴・共振	6億円	6億円	—
計	264億円	233億円	31億円

※令和元年度2月補正予算の未来に挑戦する産業基盤の創生は0億円であるが、予算額は5百万円である。

令和元年度2月補正予算のゆとりの創出は0億円であるが、予算額は34百万円である。

端数処理の関係で積上げ数値と合計値等が異なる場合がある。